

第5回 津軽富士見湖桜まつり



満開のさくらとお祭り広場



期間中公園内の桜は満開でした
↑ 階段の桜並木
→ 公園から撮影した鶴の舞橋と桜

撮影日5月3日



今年で5回目を迎える「津軽富士見湖桜まつり」が、5月3日(月)～5日(水)まで、富士見湖パークを主会場に開催されました。

今年は、期間中ちようど桜の満開時期を迎え、昨年を2千人上回る2万2千人の方が来場し、当町ならではの手づくりのイベントと町民の皆さんが園内に植樹した2千本の桜を楽しんでいました。



③



②



①

桜まつり前夜祭 原不二子氏の講演と音楽の夕べ

- ① ひなづる幼稚園の園児たちによる「前夜祭開会のことば」。
- ② クレインコーラスによる歌の披露。
- ③ 県内を中心に活動しているゴスペルグループ「ア・ライブ」のコンサート。力強い歌声と美しいハーモニーが聴衆を魅了しました。
- ④ 「憲政の父」と呼ばれた尾崎行雄を祖父に持つ原不二子氏。講演会では尾崎行雄のエピソードも交え、「さくら」で日本が行ってきた外交の歴史について講演していただきました。



④

桜まつりの開幕に先立ち、5月2日(日)午後6時より、国際交流会館ホールにおいて「桜まつり前夜祭・記念講演&音楽の夕べ」が開催されました。ひなづる幼稚園の園児による「開会のことば」で前夜祭がスタートし、尾崎行雄記念財団常務理事原不二子氏による記念講演、「ゴスペルグループ「Alive ア・ライブ」による音楽の夕べが開かれました。

開会セレモニー
桜まつり開幕

5月3日(月)、富士見湖パークお祭り広場特設ステージでは、富士見小学校児童による獅子舞が披露された後、ひなづる幼稚園の園児たちによる「開会のことば」に続き、テープカット、風船セレモニーが行われ、町民による手づくりの桜まつりが開会しました。



△オープニングは富士見小学校による獅子舞



△ダンスでの決めポーズ (あやめ児童館)



△家族に扮装しての朝ごはんダンス (ききょう児童館)



△亀田獅子舞保存会による息の合った舞



△つるた生き生きソーランの会のダンス



△勇壮な丹頂太鼓 (鶴田町太鼓の会)



△鶴田民謡教室の皆さんによる民謡の披露



△来賓・主催者によるテープカットと風船セレモニー



△ひなづる幼稚園の園児たちによる開会宣言



△鶴田中学校プラスバンド部による演奏会 演歌やアニメソングなどおなじみの曲を演奏してくれました



△東京から駆け付けた尾原家万次郎女の手踊りと民謡



△鶴田町登山囃子保存会の皆さん

大正琴の演奏（大正琴津軽郷美会）



五ツ太鼓（鶴田町太鼓の会）

第5回津軽富士見湖桜まつり



本町婦人会による踊り

第25回津軽富士見湖 全国へら鮎つり大会



△大物の部第1位の桜庭広美さん



△産卵のためたくさんのへら
ブナが湖岸に群れていました



5月4日（火）、「第25回津軽富士見湖全国へら鮎つり大会」が開催され、へらブナ釣りファンが、県内はもとより関東方面からもたくさんの方（参加者163人）が参加して、無風快晴の絶好のコンディションのもと、自慢の腕を競い合いました。

一時期激減してしまった富士見湖のへらブナも、一昨年の放流事業により、昨年以上に魚影が濃く、163人中101人に「釣果あり」とへらブナの湖として復活を遂げた大会となりました。

大会結果は次のとおり。

【大物の部】

第1位 桜庭広美さん（秋田県）

45・5 cm

【重量の部】

第1位 及川豊明さん（石手県）

12・60 kg

【女性特別賞】

小棚木栄子さん（石手県）

第12回津軽富士見湖 一周マラソン大会

5月5日（水）、「第12回津軽富士見湖一周マラソン大会&ウォーキング大会」が開催され450人のランナーが新緑の美しい湖畔を駆け抜けました。

競技は1・5 kmから8 kmまでのマラソンと、8 kmのウォーキングの十クラスに分かれて行われ、選手たちはそれぞれ自分に合ったクラスにエントリー。満開の桜や湖畔の景色を楽しみながら、思い思いのペースでゴールを目指しました。

※成績の詳細は16頁に掲載。



△参加者に用意した超特大豚汁



△広島県庄原市から参加した五島一浩さん
ゴールまでちょんまげ姿で走ってくれました



△最大の難所、「鶴の舞橋」の坂



△満開の桜並木（間山）を駆け抜ける・女子8*



△スタート直後のし烈な先頭争い・小学生男子15*



△速さより完走です・ファミリーの部



△決勝へ進出した方々。鶴田町からは唯一 斉藤厚子さん（エントリーNo.3）が決勝に進出。準大賞は 横浜勉さん（野辺地町・エントリーNo.10）が2年連続の受賞となりました



△今年の大会も1,000人以上に及び観衆が訪れました



△「今年の大会ほどレベルの高い大会はないです。本当に頭が痛くなってしまいました」と講評を語る 一戸 平二 審査委員長

桜まつりの最終日を締めくくる「第4回鶴の舞橋全国カラオケ大会」が、5月5日（水）、お祭り広場特設ステージで開催されました。予選には、県内外から、のど自慢たち17人がエントリーして、華かほりさんと成世昌平さんが歌う「鶴の舞橋」によるカラオケのバトルが繰り広げられました。

今回、鶴田町出身歌手 北野好美さんが審査員に加わり、成績発表までの間、北野さんによる歌謡ショーが行われるなどとても華やかなカラオケ大会となりました。

**第4回鶴の舞橋
全国カラオケ大会**



△今まで2回出場して2回とも決勝で悔し涙を飲んできた木村久さん（つがる市）今回3度目の挑戦で念願の大賞を受賞しました 当日会場にはお母様が応援に駆け付け、木村さんの大賞に花を添えていました



△第3回大会大賞の中山レミさん（弘前市）がゲストとして出演



△会場を盛り上げてくれた鶴田町出身北野好美さんのステージ